ヒミコの都いずこ

辻　憲男（文学部教授）

近年、奈良盆地東南の纒向（まきむく）遺跡の調査が進み、邪馬台国をめぐる論議がにぎやかである。1986年の佐賀県・吉野ケ里の発見以来、九州説が人気だったのが揺らいでいる。どちらも弥生時代から古墳時代にかけての大集落の跡である。歴史ファンならずとも、それが卑弥呼の都と関係があるのかどうか、興味をひかれるところである。

『魏志』倭人伝によると、倭（ヤマト）の大乱のあとヒミコが女王に立てられた。みずから鬼道＝呪術を用い、衆を惑わし、弟に政治をとらせた。三世紀前半、魏に使いを送り、金印や鏡を授かった。その後一族の娘・トヨ（イヨ？）が13歳で女王に立ったという。ところが、日本の記録にはそれらしい女王がいない。日本書紀は困って神功（じんぐう）皇后をあてたが、120年ほど年代が合わない。皇后は神の声を聞く巫女王（ふじょおう）で、北九州や朝鮮半島と関わりが深かった。

纒向の箸墓は全長280余メートル、その主はヤマトトトビモモソヒメという＝写真。書紀によると、このヒメのもとにかよう神が小蛇の姿をして現れたので、ヒメが驚いてハシで身を傷つけてしまった。古事記では、正体不明の男神の衣に糸をぬいつけ、翌朝それをたどって行くとミワの社に至った、糸は戸のカギ穴を通りぬけ、糸巻きには糸が三輪しか残っていなかった―後世のそうめん造りの由来になった伝説である。…しかし倭人伝のヒミコはすでに若くなく、夫はいなかったという。邪馬台国の都はいったいどこに埋もれているのだろう。

遠景、三輪山の神は巳(みい)さま・大物主。奈良県桜井市。